

PART 1

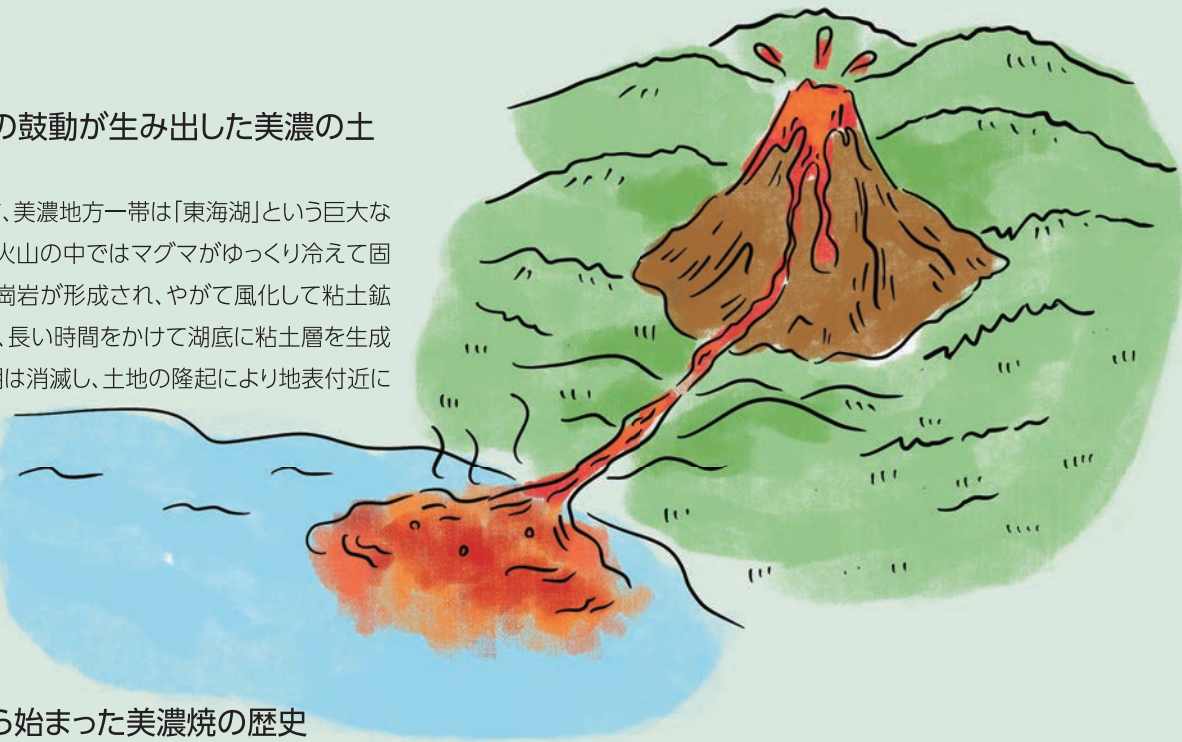
土、美濃焼、タイルへの系譜

岐阜県東濃地方(東美濃地域)に、なぜ美濃焼が生まれたのか?

そして、モザイクタイルの聖地・笠原はなぜ生まれたのか?すべては、太古の自然の営みから始まった。

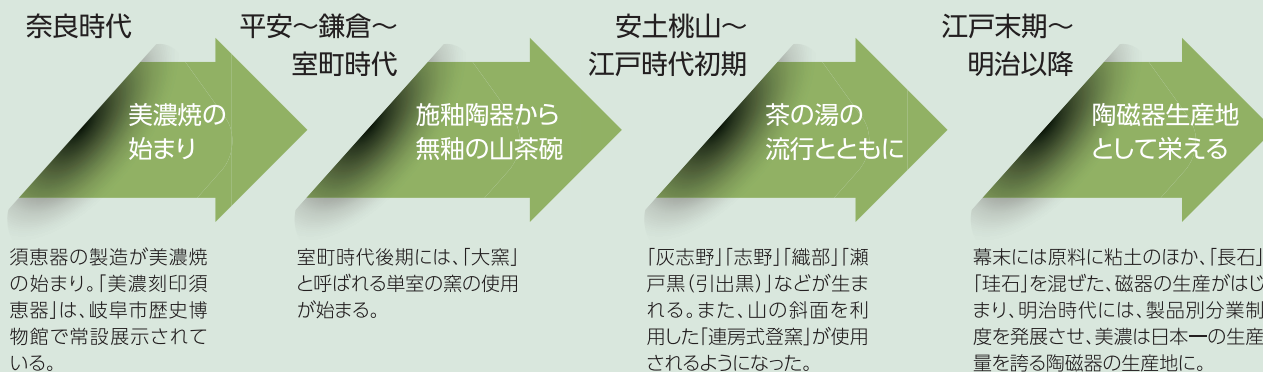
■ 太古の自然の鼓動が生み出した美濃の土

今から400～500万年前、美濃地方一帯は「東海湖」という巨大な湖の底にあった。周辺の火山の中ではマグマがゆっくり冷えて固まり、深成岩の一種の花崗岩が形成され、やがて風化して粘土鉱物となって湖に流れ込み、長い時間をかけて湖底に粘土層を生成して熟成。その後、東海湖は消滅し、土地の隆起により地表付近に豊かな粘土質の土壌が現れ、森林や河川とともに恵まれた自然環境を形成し、美濃地方のものづくりの地としての礎が築かれた。



■ 奈良時代から始まった美濃焼の歴史

1300年以上の歴史がある美濃焼は、奈良時代に焼かれた「須恵器」が起源とされている。平安時代には釉薬をかけた「灰釉陶器」が作られ、鎌倉時代には庶民の器「山茶碗」が登場。室町時代には大窯が考案され、東濃地方(東美濃地域)を中心に焼き物づくりが盛んに。安土桃山時代には「瀬戸黒」「黄瀬戸」といった器が茶陶として愛用された。江戸時代には「連房式登窯」が登場し、「織部」「御深井」といった茶道具が流行。江戸時代後半になると磁器質の器の生産が中心となり、明治時代から近代にかけて、美濃焼は日常の器として全国各地に広まった。



令和の現在、の東濃(東美濃地域)は陶磁器生産量全国シェアNo.1を誇る陶芸の産地となっている。